# 花と緑に包まれた しあわせ暮らし

**信州花フェスタ 2019 のテーマは、「北アルプスの麓から広がる　花と緑に包まれた　しあわせ暮らし」。地域の花を愛で、育んでいる皆さんに話を聞きました。**

豊科北小学校児童会の環境委員長・髙橋灯さん(左)
副委員長の髙橋春依さん（右）

## 見る人も 世話する人も笑顔に

豊科北小学校では、平成20年度からJR豊科駅の花壇づくりに取り組んでいます。

この活動は、警察署や防犯協会の支援により行われ、地域の美化とともに心の潤いを育むことを狙いとしています。植栽するのは　サルビア、ペチュニア、マリーゴールドなどの苗２００株以上。６年生が花壇のデザインを決め、沿道や車窓からの景色を整備しています。

日頃、校内の花壇管理に取り組んでいる環境委員長の髙橋灯（あかり）さんは「見てくれた人が笑顔になれるように花を植えたい」と話します。副委員長の髙橋春依（ひより）さんは「植えた私たちも笑顔になれると思う」と、花によって笑顔の輪が広がることに期待を寄せています。

［花に囲まれた早春賦まつり］　穂高川河川愛護会の花づくりによって、安曇野の春を代表するイベントになりました。

［老人クラブの花づくり］　公民館の近くなどに地区ごと独自の花壇を作って市内の緑化に取り組んでいます。写真：三郷中萱長寿会の花壇

［豊科北小児童の植栽活動］　10 年以上続く植栽活動。平成 27 年度からは長野県安曇野庁舎の花壇づくりも行っています。

## 田園と北アルプスに花を添えたい

安曇野市老人クラブ連合会は、発足以来「花いっぱいコンクール」を続けています。地区ごと公民館の近くなどにオリジナル花壇を作り、それを審査員が審査します。審査基準は花の種類と出来具合、花壇の規模、群生の色の配合など多岐にわたります。

副会長で審査員も務める澤柳伸（しん）さんは「毎年やっているうちにコツがわかってきて年々レベルが上がってきている。最近では、草花の上手い育て方を知りたいから老連に入るという人も出てきた」と笑いながら話してくれました。地域ごとに花壇に特色があり、それを見るのも楽しいと言います。

花づくりが交流の原点だという会長の藤岡嘉（よしみず）さんは、「安曇野市といえば田園と北アルプスで有名だが、そこにいっぱいの花を添えてさらに素晴らしい安曇野にしていきたい」と夢を話してくれました。花と緑の交流が地域に根づいています。

会長の藤岡嘉さん（右）と
副会長の澤柳伸さん（左）

豊科郵便局で花を植える濱佳代さん（左）と
望月隆寛さん（右）

## 地域と共に盛り上げたい

市内の郵便局では、花フェスタ期間中に花を植え、地域の皆さんをお出迎えしています。

豊科郵便局では、もともと噴水があった建物東側に３００株の花を植栽し、手作りの庭園を造っています。期間中はライトアップもしているということで、営業時間外でも楽しめます。

豊科郵便局員でボランティアとして参加している望月隆寛さんは「安曇野で全国的なフェアがあるということで一緒に盛り上げられればと思い参加した。花フェスタが終わってもこういった緑化活動を続けられればいいと思う」と話してくれました。

## 「また来るね」の一言のために

会長の布野赳さん。左後ろに写っているのは、木製のプランター。

平成４年に結成された穂高川河川愛護会では、毎年開催される早春賦まつりに合わせて、会場周辺の美化活動に力を入れています。穂高川のごみ拾いや堤防の草刈り、桜の手入れはもちろん、花を植えたプランターを置き、会場に色を添えます。

会長の布野赳（たけし）さんは、「都会から来る人たちは、北アルプスを背景にゆるやかに流れる川の景観が好きで、毎年ここに帰ってきたくなると言ってくれた。春の安曇野を代表するこの場所の景観を美しく保てるよう、桜や色とりどりの花を植え、いつまでもまた来たいと思ってもらえるようにしたい」と話します。

## 安曇野を緑と花で彩ろう

信州花フェスタ 2019 ～北アルプスの贈りもの～の市内会場整備にあたっては、市内外の多くの皆さまのご協力をいただいています。市内認定こども園等に通う未就学児とその家族、小学生、中学生、高校生をはじめ、花や緑に関わる活動をされている皆さんや愛好家の皆さん、花フェスタに関わりたいと手を挙げてくれたボランティアの皆さんなどと一緒に事業を進めています。こうした主体的な取り組みのおかげで、市内では例年にも増して花や緑を目にする機会が増えました。

今回の花フェスタのレガシー（遺産）を次世代まで引き継ぐとともに、花や緑にあふれるまちづくりの更なる普及に向けたきっかけとなるよう、継続的に取り組んでいきます。

問信州花フェスタ安曇野市実行委員会事務局（安曇野市都市計画課）　TEL71・２２４９